
第1章

2018年総選挙

——参加政党の公約と選挙の結果——

初鹿野 直美・新谷 春乃

はじめに

2018年7月に行われたカンボジアの第6期国民議会議員選挙（総選挙）は、最大野党の救国党（Cambodia National Rescue Party: CNRP）不在のまま実施された。2017年11月の最高裁判所判決により救国党には解党命令が出され、同党所属の政治家118人は政治活動を禁じられたまま、投票日を迎えた。1991年パリ和平協定後のカンボジアの民主化を長年見守ってきた欧米諸国を中心とする国際社会は、こぞってカンボジアの「民主主義の後退」と言論への抑圧を非難した¹⁾。EUは特惠関税の適用とりやめを、アメリカは政府高官へのビザ発給停止や資産凍結を検討するなどして、カンボジア政府に野党への対応を改めるよう迫ったが、投票日まで状況が変わることはなかった。

この選挙では約695万人のカンボジアの人びとが投票をしており、何らかの意思表示をした。人民党（Cambodian People's Party: CPP）は490万票に迫る票を獲得し、史上最多の得票数となったが、同時に59万票という無効票の多さが際立つ選挙であった。また、救国党以外の19野党が選挙に参加し合計140万票を獲得したものの、議席には結びつかなかった。このように、小規模政党が乱立した

1) EUは、人権と法の支配に関して、継続的な民主主義の後退（もしくは劣化）に対して深刻な懸念を表明している（European Commission 2018）。

ことで、いずれの野党の得票も無効票数すら上回ることではなく、人民党・政府への批判の受け皿としては十分な機能を果しえなかった。本章では、第1節にて選挙に参加した政党の動向と主張の傾向を整理し、カンボジアの人びとが求める社会を知る上での手がかりを得る。さらに、第2節にて投票結果の詳細がどのようなものであったのかを議論し、結果をもたらした要因を検討したうえで、第3節にて当選議員たちの傾向を概観する。

第1節 2018年総選挙に参加した政党

2018年総選挙には全部で20政党が参加した（表1-1）。人民党のほかに国民議会での経験を持つ政党は少なく、フンシンベック党（Front Uni National pour un Cambodge Indépendant, Neutre, Pacifique, et Coopératif: FUNCINPEC, 独立・中立・平和・協力のカンボジアのための民族統一戦線）、カンボジア国籍党（Cambodian Nationality's Party: CNP）、クメール経済開発党（Khmer Economic Development Party: KEDP）の3党のみである。フンシンベック党は1993年以来選挙によって国民議会に議席を獲得していたが、2013年総選挙で議席を失っていた。しかし、2017年11月の救国党解党にともなう議席の再配分により41議席を得た。カンボジア国籍党、クメール経済開発党は、2017年に議席が再配分された際、2013年総選挙時に得票数がより多かった民主連盟党（League for Democracy Party: LDP）とクメール反貧困党（Khmer Anti- Poverty Party: KAPP）が辞退したために、計3議席を割り当てられた²⁾。全25選挙区に立候補者を出すことができたのは、人民党、フンシンベック党のほかは7党のみで、全国に候補者を出すキャパシティのある政党は限られた。

これらの政党のなかで、2018年総選挙で一定程度の知名度があった野党としては、フンシンベック党、LDP、草の根民主党（Grassroots Democratic Party: GDP）、クメール意思党（Khmer Will Party: KWP）が挙げられ、表1-2にまとめられるような公約を掲げた³⁾。公約に関していえば、2013年総選挙において、救国党が貧

2) 救国党が有していた55議席は、人民党にも割り振られ、最終的には人民党79議席、フンシンベック党41議席、カンボジア国籍党2議席、クメール経済開発党1議席となった。

3) 主要野党および人民党の公約の詳細については、章末に補足資料として添付する。

表 1-1 参加政党

2018年総選挙参加政党	2013年総選挙	2017年地方 評議会選挙
1. Khmer National United Party	—	◎
2. Our Motherland Party	—	—
3. New Light Party	—	—
4. Cambodian Natinality's Party	○*	○
5. Khmer Rise Party	—	—
6. Beehive Social Democratic Party	—	○
7. Grassroots Democratic Party	—	○
8. Republican Democracy Party	○	○
9. Reaksmey Khemara Party	—	—
10. League for Democracy Party	○	○
11. Khmer Republican Party	—	—
12. Khmer Anti-Poverty Party	○	—
13. FUNCINPEC	○*	○
14. Khmer Economic Development Party	○*	—
15. Cambodian Youth Party	—	○
16. Dharmacracy Party	—	—
17. Khmer Will Party	—	—
18. Cambodia Indigenous People Democracy Party	—	○
19. Khmer United Party	—	—
20. Cambodian People's Party (人民党)	◎	◎
Cambodian National Rescue Party (救国党) **	◎	◎

(出所) NEC (2013; 2017; 2018a) および Ben and Nachemson (2017) より筆者作成。

(注) 1) ○が選挙への参加履歴がある政党, ◎は国民議会議席もしくはクム・ソンカット長ポストを得た政党に付した。

2) *印の3党は、2013年総選挙では議席を獲得しなかったが、2017年11月の救国党解党後に国民議会に議席を配分された。

3) **印の救国党は、2018年総選挙に参加していないが、参考のためにリストの末尾に配した。

表 1-2 主要政党の主張の概要

政党名	おもな公約
人民党	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祖国防衛、憲法下での全民族の団結 ・ 民主主義・自由・複数政党制の遵守 ・ 経済成長 7% 確保 ・ 農地非課税の継続、労働者・公務員の給料引き上げ ・ 教育・医療サービスの拡大 ・ 電気料金引き下げ など
フンシンベック党	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立憲民主制，民主体制，複数政党制の遵守 ・ 国王の尊重 ・ 中立の裁判システム構築 ・ 経済対策・地方への投資奨励 ・ 教育貸付サービス など
LDP	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首相の任期制導入 ・ 警察・軍高官の国民議会での任命 ・ 公務員の政党入党禁止 など
GDP	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済と就業対策（中小企業に対する免税，若者起業支援） ・ 保健（全国保険制度の開発，医療従事者の給与引き上げ） ・ 教育（教育ローン，教員の給料引き上げ） ・ 社会保障と福祉（年金や各種手当の支給） ・ 公共サービスと民主的政府（アカウンタビリティの向上）
KWP	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「よい方向」への変革（法律整備，汚職対策など） ・ 経済発展加速 ・ 労働者・公務員の給料引き上げ ・ 地方分権 など

（出所） NEC（2018b）などを参考に筆者作成（初出は初鹿野 2018）。

困層支援を軸とした社会問題への対応として具体的な数値を含めた選挙公約を提示し、支持を集めたことで、公約の重要性が注目されることとなった。2013 年総選挙時の救国党の公約戦略の成功を受けて、2018 年総選挙では上述の主要政党のすべてが具体的な政策案を含んだ公約を提示した。以下では、主要政党の動向を概観しつつ、公約で示された主張を分析する。

フンシンベック党は、1993～2013 年に人民党と連立政権を築いてきた政党で、

ノロドム・ラナリット党首が率いる。1990年代は人民党をしのぐ支持を得ていたが、2000年代以降は、ラナリットとニュク・ブンチャイ党事務局長を中心とするグループとのあいだでの確執により何度か党が分裂し⁴⁾、ラナリット自身が一時期引退をするなどの混乱が続いた。2015年になると、ふたたびラナリットを党首としたフンシンベック党が戻ってきた⁵⁾。王党派を自負する同党は、これまで同様に王制の維持と国王の権限尊重を訴えるとともに、司法の中立化と若者支援などを公約に掲げた。2013年総選挙で打ち出したシハヌーク主義政治というシハヌーク前国王が指導したサンクム（人民社会主義）時代の繁栄を理想とするという方針は姿を消し、シハヌーク前国王の威信に頼らない選挙活動を展開した。なお、フンシンベック党と袂を分かったニュク・ブンチャイは、2016年7月にクメール国家統一党（Khmer National United Party: KNUP）を設立した。2017年の地方評議会（クム・ソンカット評議会）議員選挙ではボンティアイミアンチェイ州で健闘しクム長（地方評議会議長）のポストをひとつ獲得した⁶⁾。その直後、ニュク・ブンチャイ党首が薬物の密輸・密売事件への関与の疑いで逮捕されたが、2018年4月末に保釈され、総選挙への参加が許された。

LDPは、元サム・ランシー党党員であったクム・ヴィアスナーを党首として2005年に結党された政党であり、救国党やフンシンベック党など、既存の野党とは一線を画した活動をしてきた。LDPは2013年総選挙同様に、首相の任期に制限を設けること、公務員の政党入党を禁止することなど、具体案をもって権力を統制する仕組みの導入を主張した。LDPが指摘する権力統制上の諸問題は、現人民党体制が抱える問題と分かちがたく結びついており、2018年総選挙でも人民党の投票圧力を批判する言論を展開した。

4) ノロドム・ラナリットを党首として、ノロドム・ラナリット党、愛国党が結党されてきたが、2015年1月にフンシンベック党に合流した。

5) 選挙直前、2018年6月、ラナリット夫妻の車両がプレアシハヌーク州にて交通事故に遭い、妻は死亡し、ラナリット自身も重傷を負い、バンコクへと搬送された。事件性は確認されていないが、党首としての任務を継続することが困難となったため、選挙後の8月、息子のノロドム・チャクラブットが党首代行に就こうとしたが、内務省の承認が得られず、その後もKNUPとの再合併などを含め、さまざまな可能性が取り沙汰されており、党の行く末は不透明である（Ven 2018）。

6) 地方評議会議員選挙で、各クム・ソンカット（州-郡・市、首都-地区の下での区分にあたる）にて第1党になると「長」のポストを獲得できる。クム・ソンカット長は、地方での予算執行などの現場での裁量を左右しうる権力を有することから、そのポストを獲得することは各政党にとって大きな意味を持つ。

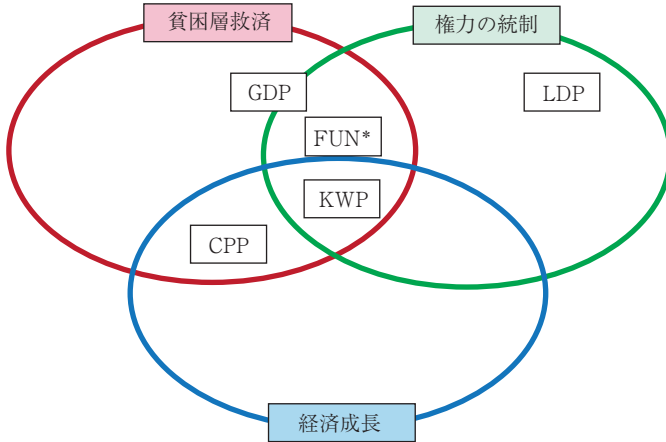
GDP は、政治評論家のカエム・ライが中心となって 2014 年に発足した「クメールのためのクメール」というネットワーク組織を元に、2015 年 8 月、法律扶助 NGO のカンボジア法律教育センター（Community Legal Education Center: CLEC）の元代表イエン・ヴィレアクを党首として発足した。カンボジア農業開発研修センター（Centre d'Etude et de Développement Agricole Cambodgien: CEDAC）の創設者で 2012 年にラモン・マグサイサイ賞を受賞したヨン・サンコマーも参加しており、農村に軸足を置いた政党である。農村部での支持拡大をめざし、農業関連事業主への資金援助や中小企業に対する免税措置、若者への起業支援を公約に掲げた。保健、教育、福祉の面では具体的数値を挙げて環境改善を訴えるとともに、権力統制の必要性を主張した。なお、同党の設立に大きくかかわったカエム・ライは、2017 年 7 月にプノンペン市内にて銃で撃たれて死亡した。同氏の政府への批判的な言動を理由とした暗殺ではないかと疑う声が挙がったが、真相は明らかになっていない⁷⁾。なお、カエム・ライの弟は、GDP とは別に、2018 年 3 月にクメール統一党（Khmer United Party）を立ち上げた。

KWP は、サム・ランシーの側近で救国党幹部であったコン・コアムの息子であるコン・モニカを中心として 2018 年 4 月に設立された。「KWP がこそが救国党の魂を継ぐ」と主張し、候補者の 6 割を元救国党員が占め、救国党支持層の取り込みをめざした。権力統制に関する法律の整備や汚職対策を進めるとともに、経済発展の加速、労働者・公務員の給料引き上げや地方分権推進などを公約に掲げた。

これら主要野党に対して、与党・人民党は、「（われわれが）クメール・ルージュ体制を打倒し、カンボジアに平和をもたらした」という従来の主張を踏襲した。フン・セン首相を前面に出しつつ、祖国防衛と憲法下での全民族の団結を訴え、2013 年の総選挙でみられたフン・セン首相の象徴化を加速させた（新谷 2015）。さらに、民主主義・自由・複数政党制の遵守、経済成長 7% の確保、農地非課税の継続、労働者・公務員らの給料引き上げと分割支給、教育・医療サービスの拡大、電気料金引き下げ、といった多岐にわたる政策を掲げて選挙戦を戦った。2013 年総選挙までは平和への貢献と経済成長の実績という過去の業績を示し、その方針を維持することを訴えてきたが、2018 年総選挙ではそのようなマクロな課題

7) カエム・ライ暗殺事件に人民党が関与していたのではないかとラジオで言及した政治評論家キム・ソクは 2017 年 2 月に逮捕され、2018 年 8 月に釈放されたのち、国外へと逃れた（Ben 2018）。

図 1-1 主要政党の主張の整理



(出所) 筆者作成。

(注) * FUN はフンシンベック党を意味する。

とともに、貧困層への支援姿勢を打ち出した。

主要政党の主張は、貧困層救済、権力の統制、経済成長という3つの領域を軸として展開された(図1-1)。与党を含むほとんどの政党が、貧困層支援をその主張に組み込んでおり、これまでの順調な経済成長だけでは解決できない問題への対処を必要としていることがわかる。具体的な政策としては、労働者や公務員の賃金引き上げ、教育ローンや教育の機会確保などによる若者への支援、保健サービスの充実、農業支援などが共通している(表1-2)。救国党が貧困層救済を具体的な改善点とともに公約として提示してカンボジア政治の変化を訴えた2013年総選挙と比較して、2018年総選挙では貧困層救済を人民党が公約に含めたことで、権力の統制という人民党が扱いにくい政策を除いて、野党の主張の独自色がみえにくくなった。

2018年総選挙では、救国党支持層を他の野党がいかに取り込めるのかという点で、野党のなかには救国党に対する処遇を取り上げる党もみられた。結党時から「救国党の魂を引き継ぐ」と主張したKWPはもとより、救国党とは異なる野党として結成されたGDPとクメール統一党も、選挙キャンペーンを通じて逮捕されている救国党議員の釈放を訴えた。

なお、排外的ナショナリズムを利用した選挙活動もわずかながらみられた。2013 年総選挙までは、歴史的にベトナムとの結びつきが強い人民党を批判する常套手段として「反ベトナム」ナショナリズムを野党が持ち出し、選挙活動で利用する傾向がみられた。実際にそれを支持する人たちも多くみられ、しばしば暴力事件に発展することもあった。2018 年総選挙の時点でも、主要政党以外の一部の野党のあいだで、移民管理の強化がうたわれた。結果的にこの主張が盛り上がることはなかったが、依然として同様の感情に訴えることがある程度有効な手段と認識されている点には注意が必要である⁸⁾。

与野党の主張の分析から、カンボジア社会が抱える課題が明らかになった一方で、それら公約をめぐる議論が 2018 年総選挙の争点の中心になり得なかったことも指摘したい。総選挙への参加を選んだ国内の野党勢力がいた一方で、後述するように国外で活動する救国党幹部は選挙のボイコットを訴えた。そのため、公約そのものが野党支持者の議論の土台に上るというよりも、投票に行くのか行かないのかという点が焦点となり、野党勢力の足並みの乱れが露呈した。さらに、政党看板の設置やキャンペーン活動への動員などの選挙活動のキャパシティ面で、野党と人民党とのあいだの差は圧倒的であった。野党のなかでも、かつて政権を担っていたフンシンバック党や、結党から 10 年以上の歴史がある LDP についてはある程度の知名度があったが、とくに結成して間もない新政党が政党の存在やその主張を周知することは困難を極めた。

第 2 節 選挙結果

1. 投票の様子

2018 年 7 月 29 日の総選挙では、州・首都ごとの 25 選挙区に 1 ～ 12 人の定数が割り当てられ、登録を済ませた選挙人が各政党に投票する拘束名簿式比例代表

8) 移民の問題では、伝統的にはベトナム人への反感がその問題の中心に据えられたが、急激な中国人移民の増加にともない、中国人への反感が取りざたされる事態が増えつつある (Wright 2018)。

制による選挙で、全125人の国民議会議員を選出した⁹⁾。2013年総選挙からの主な変更点としては、トゥボーンクモム州がコンボンチャーム州から分離したことともなっており1選挙区増加し全25選挙区となり、議席配分がコンボンチャーム州10議席、トゥボーンクモム州8議席となったこと、プレアシハヌーク州の議席を1議席から3議席へ増加させて全125議席となったこと（表1-3）、選挙人名簿の見直しが進み選挙人が130万人近く減少したことが挙げられる。また、参加政党が前回は8政党のみであったのが2018年は20政党が参加した。国際的な選挙監視は実施されたが、中国、シンガポール、ミャンマーなどが参加し、欧米諸国からの参加はなかった。NGOからの選挙監視も限定的であり、2013年総選挙と比べて2018年総選挙は選挙の正当性や公正さの面で同列に語ることはできない。

投票は、7月29日の午前7時から午後3時までのあいだに全国2万カ所以上の投票所で行われた。投票に関連した暴力や混乱は報告されておらず、表面上は平穏であった。票はその日のうちに集計され、その後の不服申し立て期間において、8月15日までに投票結果が確定した。

表1-3 2018年総選挙の定数

定数	選挙区名
1人（8州）	コックコン、モンドルキリー、ラッタナキリー、ストウントラエン、カエップ、バイリン、ウッドーミアンチェイ、プレアヴィヒア
3人（2州）	クロチェ、プレアシハヌーク
4人（2州）	コンボンチナン、ポーサット
5人（1州）	スヴァーイリアン
6人（5州）	ボンティアイミアンチェイ、コンボンスプー、コンボントム、コンポート、シナムリアブ
8人（3州）	バッドンボン、ターカエウ、トゥボーンクモム
10人（1州）	コンボンチャーム
11人（2州）	カンダール、プレイヴェーン
12人（1都）	プノンペン

（出所）国民議会議員選挙法6条により筆者作成。

9) 選挙制度の概況については序章、2013年以降の選挙運営上の改革の詳細については、第2章を参照されたい。

2. 投票結果の特徴

(1) 人民党の総得票数の多さ

有力な対抗馬である救国党を追いやった人民党の総得票数は 488 万 9113 票（得票率 76.8%）にのぼり、全 125 議席を獲得した。この票数は、2013 年総選挙の 323 万 5969 票（得票率 48.8%）よりも約 165 万票、2017 年地方評議会選挙の 354 万 56 票（得票率 50.8%）よりも約 135 万票も多く、圧倒的なものであった。いずれの選挙区でも、有効得票数の 7～8 割が人民党に投じられており、野党が入り込む隙はなかった（図 1-2、表 1-4）。

最大野党の救国党が解散されたまま選挙を実施するということが決まった時点で、人民党の勝利自体は容易に想定された事態ではあった。しかし、ここまで多くの票を集めるにいたった決定的な理由は定かではなく、複数の要因が重なった

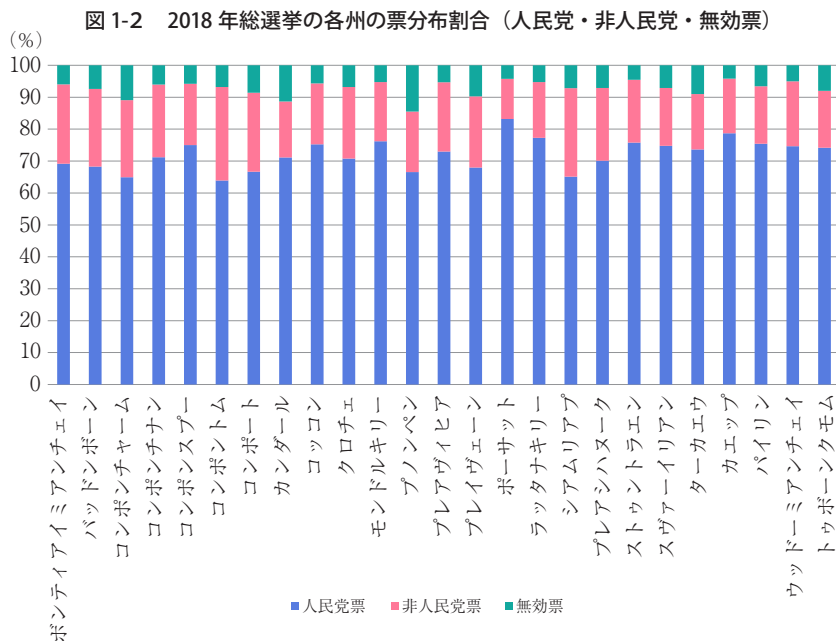


表 1-4 2013, 2017, 2018 選挙結果の一覧

		人民党	救国党	その他	有効投票数	無効票	投票総数	登録選挙人数
2013 年	得票数	3,235,969	2,946,175	445,015	6,627,159	108,085	6,735,244	9,675,453
国民議会	絶対得票率	48.0%	43.7%	6.6%	98.4%	1.60%	100.0%	投票率 69.6%
議員選挙	得票率	48.8%	44.5%	6.7%	100.0%			
	議席数	68	55	0	123			
2017 年	得票数	3,540,056	3,056,824	377,031	6,973,911	133,484	7,107,395	7,865,033
地方評議会	絶対得票率	49.8%	43.0%	5.3%	98.1%	1.88%	100.0%	投票率 90.4%
議員選挙	得票率	50.8%	43.8%	5.4%	100.0%			
	クム・ソンカット長	1,156	489	1	1,646			
2018 年	得票数	4,889,113	—	1,473,128	6,362,241	594,659	6,956,900	8,380,217
国民議会	絶対得票率	70.3%	—	21.2%	91.5%	8.55%	100.0%	投票率 83.0%
議員選挙	得票率	76.8%	—	23.2%	100.0%			
	議席数	125	—	0	125			

(出所) NEC (2013; 2017; 2018c) より筆者作成。

(注) 2014 年以降、選挙人名簿の整備を進めたことから、2013 年の登録選挙人数は実態から離れたものとなっているが、参考のために掲載した。

結果ではないかと考えられる。中長期的な取り組みとして、若い人たち、工場労働者や大学で学ぶ学生たちなどに対して、さまざまな方策をもって取り込もうとしてきたことや、さまざまな「改革」に取り組んできたことは（序章，第3章参照），多くの人が人民党に投票した背景的な要因として挙げられる。

さらに、人民党は、積極的な支持者はもちろんのこと、消極的な支持者をしっかり取り込むために、選挙キャンペーンを通じて、党员やその家族、友人を介して、SNS などを活用した積極的な投票の呼びかけを行った。投票日 2 日前の選挙キャンペーン最終日は、人民党のものが圧倒的に規模が大きく（写真 1-1）、プノンペンの市街地でも最も目立つ場所にステージをおいたコンサートさながらの演出がとられた。投票日には、先に投票した人たちが、投票した証拠となるインクをつけた指を示した写真を SNS 上に投稿し、まだ投票に行っていない友人たちへの投票を促



写真 1-1 人民党支持者による選挙キャンペーンの様子。プノンペンにて筆者撮影(2018年7月27日)。

すことで、投票に行かないかもしれない身近な消極的支持者の票をとりこぼすことなく確保することに努めた。このことは、ボイコットを考えていた救国党支持者には大きなプレッシャーとなったであろう（後述）。当日の午後1時までの投票率は約60%であった¹⁰⁾。カンボジアでは通常朝早くに投票に行く人が多いが、午後3時までの最後の2時間で多くの人たちが投票所を訪れたのは、何らかのかたちで投票を呼び掛けあうような状況があったのではないかと推察される。

（2）救国党のボイコット戦略とその結末

救国党勢力は、海外に滞在するサム・ランシー前党首やムー・ソクフオ副党首らが、選挙の正当性への疑問ゆえのボイコットを呼びかけた。カンボジアの選挙では、投票を終えた人が指にインクをつけることになっているため「きれいな指キャンペー

10) 『プノン』2018。「カンボジア総選挙、午後1時までの投票率は約60%」7月29日、(<https://phnom.asia/today0729/>, 2019年1月14日閲覧)。

ン」と称して、投票しないで指をきれいに保つことを呼びかけた。しかし、選挙においてボイコットを呼びかけることは違法であり、バッドンブーン州でそのような活動をしていた旧救国党員5人が逮捕され、うち3人は罰金を課せられた¹¹⁾。さらに、救国党支持者が直面した現実的な問題もあった。カンボジアの投票所は各村に設置されており、選挙人は最大750人という小規模なものにすることが規定されており（選挙法39条）、その狭いコミュニティで投票をしない選択肢をとることは難しかった。投票をした証拠のインクをつけていない指のままで過ごすよりも、とにかく投票には行こうという選択をした人たちが多く、最終的な投票率は8割を超えて、ボイコット戦略は不発に終わった（表1-4）。

なお、人民党は既述のとおり、積極的な投票を呼びかけてきた。国家選挙管理委員会（National Election Committee: NEC）も当然のことながら「投票に行こう」という呼びかけを繰り返し、動画を公開するなどした。このような動きもまた、ボイコットしにくい環境をつくることに影響を与えた。

（3）大量発生した無効票

投票所に向いた人たちのなかで、「どこにも投票したくない」もしくは「救国党に投票したい」と考える人たちの一定数は無効票を投じるという選択をした。投票用紙に大きく「×」を記したり、自分の意見を書き込むなどして意思表示をした人たちもあり、無効票数は2013年総選挙よりも約49万票、2017年地方評議会選挙よりも約46万票多い約59万票（総投票数の8.55%）に上った（表1-4）。無効票率が10%を超えた州は、プノンペン（14.46%）、カンダール（11.35%）、コンボンチャーム（10.94%）の3州で、いずれも2013年総選挙で救国党が過半数の得票率を記録した州でもあることから、このような票を投じた人たちのなかに救国党支持者が多く含まれたことが推測される¹²⁾。ただし、無効票を投じるよう表立って組織的に呼びかけた形跡は見当たらず、投票に赴いた人々の自発的な動きであったと考えられる。この無効票はいずれの野党の得票よりも大きく、救国党が不在であることの影響の大きさを示すものではあるが、無効票では議席を獲得すること

11) 2018年12月、リーダーに対して1000万リエル（約2500ドル）、2人に対して500万リエル（約1250ドル）の罰金の支払いが命じられた（選挙法142条、166条）。

12) 2013年のコンボンチャーム州と2018年のコンボンチャーム州は、2014年の同州の分割により異なる大きさであるが、分割前後も、同州には救国党の支持層が多く含まれている（(5)参照）。

はできない。仮に、2013 年総選挙時の救国党の得票数に匹敵するような量の無効票が発生していたら状況が変わったのかもしれないが、59 万票の無効票について選挙管理委員会は「異常ではない」として公式に問題視することはなかった (Mech 2018)。

(4) 野党の得票状況

野党は 19 政党が参加したが、知名度とキャパシティで大きく遅れをとっていたこともあり、結果としてどの政党も議席確保に必要な数の票を獲得することができなかった。上位 3 野党としては、フンシンベック党が合計 37 万票 (得票率 5.89%)、LDP が合計 30 万票 (同 4.86%)、KWP が合計 21 万票 (同 3.35%) を獲得した。前回の総選挙にも参加していたフンシンベック党は 2013 年に約 24 万票 (同 3.66%)、LDP は約 6.8 万票 (同 1.03%) を獲得していたことを考えると、両党とも大幅に票を伸ばしたことがわかる。

得票が多かった 3 野党が比較的高い得票率だった地域としては、フンシンベック党がコンポントム州 (定数 6 人) で 11.08% (2013 年は 8.14%)、プレアシハヌーク州 (定数 3 人) で 9.54% (同 5.62%)、コンボンチナン州 (定数 4 人) で 8.15% (同 6.02%)、LDP がシアムリアブ州 (定数 6 人) で 7.45% (同 2.93%)、バッドンボン州 (定数 8 人) で 6.96% (同 1.86%) であった。フンシンベック党および LDP の両党とも、これらの州では 2013 年よりも高い得票率を達成している。また、今回初めて選挙に参加した KWP は全国的に 2 ～ 4% の票を得た。

このことは、救国党支持者の票が、①フンシンベック党や LDP のような古株の野党と、②救国党の後継をうたう新しく結成された野党へと、薄く広く分散したことを示唆する。さらに、③人民党に投票した人や、④無効票、⑤棄権 (ボイコット) を選択した人たちもいたことから、2013 年総選挙で大きなインパクトをもたらした救国党支持層の票は大きく分散し、野党による議席獲得がさらに困難になった。

なお、実質的に小選挙区となる 1 人区は、比較的大規模の大きな政党にとって有利な選挙区である。救国党が躍進した 2013 年でも全 9 選挙区で人民党が勝ちとってきた。2018 年総選挙でも 8 カ所ある 1 人区では 78.65 ～ 82.16% の高い得票率で人民党が圧勝した。また、小規模政党にとって議席を獲得できる可能性が高いはずの定数が 10 ～ 12 人の比較的大規模な選挙区の主要政党の得票状況を概観してみた場合も (表 1-5)、フンシンベック党、LDP が他の野党よりも若干得票率が

表 1-5 定数 10 人以上の選挙区での主要政党得票状況

	コンボンチャーム 定数 10 人	カンダール 定数 11 人	プレイヴェーン 定数 11 人	ブノンペン 定数 12 人
人民党	73.92%	77.78%	75.30%	77.78%
フンシンベック党	6.54%	5.18%	5.52%	5.18%
LDP	4.84%	5.06%	6.42%	5.06%
KWP	3.82%	2.49%	3.10%	2.49%
GDP	1.19%	0.76%	0.92%	2.27%

(出所) NEC (2018c) より筆者作成。

高かったものの、救国党のような規模をもつ政党でないと、定数が 10 人以上の選挙区であっても議席の獲得は困難であった。

(5) 選挙区および定数変更の影響

2013 年からの選挙区および定数の変更が選挙結果に何らかの影響をもたらしているものであったのかどうかを確認しておきたい。いずれの変更についても、2018 年の選挙結果は、救国党の不在により、確実に検証できるほどの材料はないが、過去の選挙結果を参照しつつ、2018 年の無効票や投票率の状態と照合する。

ひとつ目の変更として、コンボンチャーム州がコンボンチャーム州とトゥボーнкモム州とに分割された。2013 年総選挙ではコンボンチャーム州の定数 18 のうち 10 議席を救国党が獲得した。2014 年の州の分割は、コンボンチャーム州の人口が大きいことを理由としていたが、分割したことで、人民党が弱かった同地域でのこれ以上の野党勢力拡張を抑制する意図があったのではないかという指摘があった (Mech and Hardley 2017)。2013 年総選挙の得票結果を両州に割り振って再計算しても議席数は両党とも変わらないため、あからさまなグリマンダリングであると結論づけるのに十分な証拠を得ることは困難である。ただし、コンボンチャーム州に残った西側の 10 郡・市はすべて救国党が強い地域である一方で、トゥボーнкモム州には 2013 年時に人民党票が多かった東側の 5 郡と救国党票のほうが多かった 2 郡・市が含まれた。ゆえに、トゥボーнкモム州での人民党の議席をより確実に確保しようとしたのではないかという指摘は可能である。

単純な比較はできないが、トゥボーнкモム州に該当する地域では分割以前も以後も人民党が優位に立ち続けている一方で、新しいコンボンチャーム州に該当する

地域では変わらず救国党勢力の影響を強く受け続けていることは確認できる（表 1-6）。2017 年に行われた地方評議会選挙では、トゥボーンクモム州で人民党は優位だったが、コンボンチャーム州では引き続き救国党が人民党を圧倒した。2018 年総選挙は、トゥボーンクモム州の投票率は 84.21%で全国平均よりも高く、無効票率も 8.02%に抑えた一方で、コンボンチャーム州は投票率 81.61%，無効票率が 10.94%で、若干ではあるが救国党支持層の存在が影響したと考えられる結果となった。

なお、選挙区の規模が 18 人区から 10 人区へと小さくなったことで、最低でも 1 議席を確保するための議席獲得保証得票率が 5.26% から 9.09% へとあがり、仕組みとして弱小な政党が当選しにくくなったことは事実である¹³⁾。2013 年総選挙のコンボンチャーム州 18 議席の内訳は、人民党 8 議席（得票率 43.97%）、救国党 10 議席（同 53.51%）であった。コンボンチャーム州とトゥボーンクモム州が分離しなかったと仮定して、2018 年の得票数を合計して議席を配分した場合、1 位の人民党（同 76.33%）は 17 議席、2 位のフンシンベック党（同 6.31%）が 1 議席、3 位

表 1-6 コンボンチャーム州およびトゥボーンクモム州での人民党・救国党の選挙結果（得票率）推移（2012～2018 年）

	2012 年地方選挙		2013 年総選挙		2017 年地方選挙		2018 年総選挙		
	人民党	サム・ランシー党+人権党	人民党	救国党	人民党	救国党	人民党	無効票率	投票率
(旧) コンボンチャーム州	52.38% (161)	40.49% (12)	43.97% (8)	53.51% (10)	47.48% (81)	47.15% (92)	76.33% (17)	9.68%	82.71%
(新) トゥボーンクモム州	56.99% (61)	36.33% (3)	52.03% (4)	42.32% (4)	53.47% (46)	41.32% (18)	80.64% (8)	8.02%	84.21%
(新) コンボンチャーム州	48.95% (100)	43.58% (9)	37.48% (4)	62.52% (6)	43.05% (35)	51.46% (74)	72.92% (10)	10.94%	81.61%

（出所）NEC（2012; 2013; 2017; 2018c）から筆者作成。

（注）2012 年および 2013 年の網掛け部分については、後のコンボンチャーム州分割の際の変更ののちで、各郡の票を当てはめて筆者が算出した。また、2017 年および 2018 年の旧コンボンチャーム州に関する網掛け部分の値は、分割されていなかった場合の数値を記入してある。括弧内は、地方評議会選挙については獲得したクム・ソソカット長のポスト数、総選挙については国民議会議席数を意味する。また、2012 年は、救国党結党以前であったことから、サム・ランシー党と人権党の数値を合計した。

13) 議席獲得保証得票率とは、ある政党がその得票率を超えていれば他党の得票状況に関係なく確実に 1 議席はとれるという意味であり、他党の得票状況によっては、それよりも低い得票率でも議席を獲得できるケースはありうる。

のLDP（同4.18%）以下は0議席となる。コンボンチャーム州の分割時に、政府・人民党が救国党解党とその後の小規模政党の乱立の状況まで想定していたかどうかはわからないが、小規模政党には不利な条件変更であったことが確認できる。

ふたつ目の変更点として、プレアシハヌーク州の選挙区は従来の定数1人から定数3人へと増員された。これについても、人口増加が理由であるが、一方で、人口規模の近いウッドーミアンチェイ州およびプレアヴィヒア州は、1人区に据えおかれた。プレアシハヌーク州は、2013年総選挙時の人民党の得票率は59%で、人民党の得票率が60%を超えた他の2州よりも救国党の追い上げをより強く経験しており、とりたてて人民党に有利な結果が予想される変更であったとは考えづらい¹⁴⁾。3州とも、2013年には8万人台であった登録選挙人数が、2017年以降11万人を超え、2018年総選挙には12万人を超えていた。人口増加状況を見極めた定員設定が困難であった可能性は考えられる。

第3節 当選議員たちの顔ぶれ

2018年総選挙で当選した第6期議員たちは、いうまでもなく、125人全員が人民党所属である。8月15日に確定した結果に基づき、9月5日に125人が宣誓をした。しかし、その後、大臣・長官・副長官などの政府の各種役職に任命された者のなかで議員を辞退した者もあり、9月12日に合計38人もの議員が交代した。大臣クラスで議員としてのポストを辞退した人たちのなかには、アン・ヴォンヴァタナー司法大臣、ホン・チュンナロン教育大臣ら各省大臣や、新たに上級大臣に就いたボル・サルアン元国軍総司令官などがいる。一方で、副首相のブラック・ソコン外務・国際協力大臣、アン・ボンモニロアット経済・財務大臣らは引き続き議員も兼務している。

第6期議員の年齢層を詳しくみてみると、1951年生まれのフン・セン首相と同世代もしくは少し年下にあたる1950年代生まれの議員が過半数の68人を占め、中心的な役割を担っていることがわかる（表1-7）。一方で、2013年に躍進したと

14) プレアシハヌーク州の2013年の投票結果にのっとり3議席を割り振ると、人民党2、救国党1議席となる。

表 1-7 議員の年齢層

	第 6 期国民議会議員 (2018)	第 5 期国民議会議員 (2013)	第 5 期国民議会議員	
			人民党	救国党
1980 年代生まれ	8	2	2	0
1970 年代生まれ	15	16	3	13
1960 年代生まれ	7	19	1	18
1950 年代生まれ	68	47	33	14
1940 年代生まれ	25	33	24	9
1930 年代生まれ	2	6	5	1
合 計	125	123	68	55

(出所) NEC (2018d; 2018e) より筆者作成。

(注) 第 5 期国民議会議員については、2013 年 9 月の名簿に基づく数字である。

きの救国党は 1960 年代生まれの議員が多かったが、第 6 期の人民党議員のなかには 1960 年代生まれは 7 人しか含まれない。このことから、救国党と人民党を支える世代のちがいが指摘される。

若手の登用については、第 5 期国民議員のなかで 1980 年代生まれの人民党所属議員はフン・セン首相三男のフン・マニーを含む 2 人だけであったが、第 6 期には最年少の 1989 年生まれを含む 8 人が議員に就任しており、党内の世代交代を見越した動きがはじまっていることがうかがえる。比較的若手の議員のなかには、フン・マニー議員のほかにも故ソク・アン副首相の息子であるソク・ソカン議員（ターカエウ州、1983 年生まれ）、グオン・ニユル国民議会第 1 副議長の息子のグオン・ソチアト議員（コンポンチャーム州、1971 年生まれ）など、人民党有力者の子息である二世議員が含まれる。このほかに、議員としての立場ではなく、長官などの立場から政権にかかわることになった二世人材もいる（第 4 章参照）。なお、高齢議員については、ヘン・サムリン国民議会議長とコン・サムオル議員の 2 人を除く 1930 年代生まれの議員はすべて引退した。

女性議員の数については、2013 年も 2018 年も、いずれも 25 人であった（表 1-8）。下院レベルでの女性議員数の国際比較によると¹⁵⁾、2013 年 12 月の時点では女性

15) Inter-Parliamentary Union (IPU) (<http://archive.ipu.org/wmn-e/classif.htm>, 2019 年 1 月 14 日閲覧) による。

議員数 25 人（全議員数の 20.3%）は 67 位であったが、総議席数が増えて分母が大きくなったことと世界的な女性議員割合の増加を受けて、2019 年 1 月の時点で 25 人（同 20.0%）と 102 位に後退した。

表 1-8 女性議員の数

	女性議員数	全体に占める割合
2013 年	25 人	20.3%
2018 年	25 人	20.0%

（出所） NEC（2018d; 2018e）より筆者作成。

（注）第 5 期国民議会議員については、2013 年 9 月の名簿に基づく。

おわりに

救国党が不在のなか、20 政党が参加して行われた 2018 年の総選挙では、人民党が圧勝した。選挙に参加した野党は、経済成長は必要としつつも、政治権力への統制や貧困層への救済策の必要性を強く訴えた。ただし、人民党も、貧困層の救済を含めた包括的な政策を示したことから、政策的には独自色を示しにくい状況となった。一方で、海外にいる救国党指導部の一部が、選挙の正当性に大いなる疑問があるとして、選挙のボイコットを訴えたことから、選挙戦では、政策よりも「選挙に行くか行かないか」がクローズアップされることとなり、知名度やキャパシティで劣る多くの野党にとっては、より厳しい選挙となった。

選挙の投票率が 83%にものぼったのは、小さなコミュニティのなかで選挙に行かずに「きれいな指」のままにいることの難しさがあったり、人民党が積極的に投票を促したことがあった。選挙に行かざるを得なかったがどこにも投票したくなかった人たちは、無効票を投じることで一矢報いようとしたため、無効票の票数はいずれの野党の得票よりも大きく、人民党に次いだ規模となった。しかし、選挙結果を左右するほどのものにはなりえず、むしろ野党票が分散したことでいずれの野党も議席を獲得できず、最終的に全 125 議席が人民党のものとなった。

国内外から選挙への不満や正当性への疑念の声は決して消えていないが、2018 年 9 月に第 6 期国民議会は正式に発足した。125 人の人民党議員は、年齢層では 1950 年代生まれが中心であるが、徐々に 1980 年代生まれの若い人材も登用されつつある。再選挙を求める救国党の声に応じるような動きはなく、この 125 人の議員たちがカンボジアの立法を担うこととなる。

〔参考文献〕

<日本語文献>

- 新谷春乃 2015. 「現代カンボジアにおける政治指導者像構築の試み：国定歴史教科書と 2013 年選挙キャンペーンの分析を中心として」 AGLOS (Special Edition 2014).
- 初鹿野直美 2018. 「カンボジアの 2018 年総選挙を振り返る」 初鹿野直美編「カンボジア：最大野党不在の 2018 年総選挙」機動研究成果報告, アジア経済研究所 (https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Kidou/2019_cambodia.html).

<英語文献>

- Ben Sokhean 2018. “Kim Sok to keep up fight ‘for change’ from Finland.” *The Phnom Penh Post*. 15 October (<https://www.phnompenhpost.com/national/kim-sok-keep-fight-change-finland>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Ben Sokhean and Andrew Nachemson. 2017. “Breaking: Lawmakers take CNRP seats after dissolution.” *The Phnom Penh Post*. 27 November (<https://www.phnompenhpost.com/national-politics/breaking-lawmakers-take-cnrp-seats-after-dissolution-0>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- European Commission 2018. “Cambodia: EU mission assesses human rights and labour situation.” 12 July (<http://trade.ec.europa.eu/doclib/press/index.cfm?id=1889&title=Cambodia-EU-mission-assesses-human-rights-and-labour-situation>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Mech Dara 2018. “NEC: Nearly 600,000 invalid votes cast in polls.” *The Phnom Penh Post*. 31 July (<https://www.phnompenhpost.com/national/nec-nearly-600000-invalid-votes-cast-polls>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Mech Dara and Erin Handley 2017. “Carving Tbong Khmum from Kampong Cham may see CPP gain assembly seat.” *The Phnom Penh Post*. 17 June (<https://www.phnompenhpost.com/politics/carving-tbong-khmum-kampong-cham-may-see-cpp-gain-assembly-seat>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Ven Rathavong 2018. “Ministry rejects Prince Chakravuth’s position.” *Khmer Times*. 13 September (<https://www.khmertimeskh.com/533006/ministry-rejects-prince-chakravuths-position/>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).
- Wright, George 2018. “Anti-Chinese Sentiment on the Rise in Cambodia: Increasing Chinese political influence and presence in Cambodia has sparked anti-sentiment.” *The Diplomat*, (<https://thediplomat.com/2018/11/anti-chinese-sentiment-on-the-rise-in-cambodia/>, 2019 年 8 月 30 日閲覧).

<クメール語文献>

- Konak kammeathikar cheate riebcham kar baohchhnaot (国家選挙管理委員会, NEC) 2008. “Tareang lotthophal phluv kar ney kar baohchhnaot tam khett krung tuteang brotes (全国州・クロン別公式投票結果表).” 9月2日 (<https://www.neceselect.org.kh/khmer/content/4136>, 2019年8月30日閲覧).
- 2012. “Lotthophal phluv kar ney kar baohchhnaot chreus reus krom preuksa khum songkat anatte ti 3 (第3期クム・ソンカット評議会議員選挙公式結果).” 6月24日 (<https://www.neceselect.org.kh/khmer/content/814>, 2019年8月30日閲覧).
- 2013. “Banhchi reay neam bekkhachon cheap chhnaot chea tamnang reastr nitekal ti5 tam mondol reachotheani/ khett (第5期国民議会議員都・州選出候補者リスト).” 9月5日 (<https://www.neceselect.org.kh/khmer/node/758>, 2019年8月30日閲覧).
- 2017. “Lotthophal phluv kar ney kar baohchhnaot chreus reus krom preuksa khum songkat anatte ti 4 (第4期クム・ソンカット評議会議員選挙公式結果).” 6月25日 (<https://www.neceselect.org.kh/khmer/content/2402>, 2019年8月30日閲覧).
- 2018a. “Konabaks noyoubay dael ban chhor chhmuoh baohchhnaot chreus tang tamnang reastr nitekal ti6 chhnam 2018 (2018年第6期国民議会議員選挙候補政党).” (<https://www.neceselect.org.kh/khmer/content/3321>, 2019年8月30日閲覧).
- 2018b. “Koul noyoubay konabaks knong kar khousanea baohchhnaot chreus tang tamnang rastr nitekal ti6 (lekh 02) (第6期国民議会議員選挙キャンペーンにおける政党公約(第2巻)).” 7月2日.
- 2018c. “Tareang lotthophal phluv kar ney kar baohchhnaot chreus tang tamnang reastr nitekal ti6 (第6期国民議会議員選挙公式投票結果表).” 8月15日 (<https://www.neceselect.org.kh/khmer/content/3520>, 2019年8月30日閲覧).
- 2018d. “Banhchi reay neam bekkhachon cheap chhnaot chea tamnang reastr nitekal ti6 tam mondol reachotheani khett (第6期国民議会議員都・州選出候補者リスト).” 8月15日 (<https://www.neceselect.org.kh/khmer/content/3517>, 2019年8月30日閲覧).
- 2018e. “Sech kdei samrech lekh 469 sdeipi kar brokas totuol skol bekkhachon cheap chhnaot tamnang rastr nitekal ti 6 chhnam 2018 robas konabaks brocheachon kampuchea nov mondol kett Bat dambang kett Kampong Cham kett Kampong chhnang kett Kampong Speu kett Kampong Thom kett Kandal kett Kartie reachotheani Phnom Penh kett Prey Veang kett Pursat kett Preah Seihanu kett takeo kett Kep kett Oddar Meanchey kett Tboung Khmum (バットンボン州, コンボンチャム州, コンボンチナン州, コンボンスピー州, コンボントム州, カンダール州, クロチェ州, プノンベン都, プレイヴェーン州, ボーサット州, プレアシハヌーク州, ターカエウ州, カエップ州, ウッドミアンチェイ州, トゥボンクモム州

2018 年人民党選出国民議会議員候補の承認に関する決議 469 号).”9 月 12 日
(<https://www.necselect.org.kh/khmer/content/3549>, 2019 年 8 月 30 日閲覧)).

補足資料1：2018年総選挙注目政党の公約一覧

No.7 草の根民主党（GDP）

1 経済と就業

- ・水不足、資金、市場、よい農業技術を享受するために、熟練者 5000 人を全村で農業に従事させる。
- ・農民、加工企業、農業産品輸出会社は、あらゆる資金、市場、さまざまな恩恵を政府から支援されるべきである。とくに、国内での生産物流通のために1年間で5%の資金を享受する。会社や企業の登記はスロック（郡）／クロン（特別市）／カン（ブノンペン都の郡相当）で1カ所にまとめ、起業した会社は5年間の税金優遇が受けられる。若者が自力で企業を立ち上げた場合、500万リエルのお祝い金が受け取れる。

2 保健

- ・18歳から65歳までの市民が1カ月500リエルを支払うことで、クメール人全員に対する治療保険制度を準備し公共の健康を維持する。
- ・首都と全州のスロック／クロン／カンでISO9001に沿った高品質の病院を準備させ、医者能力を向上させる。
- ・食料安全保障に関する法を効果的に施行させる。

3 教育と若者

- ・あらゆる専門や規定の学習を継続するために、若者に対して1年あたり500万リエルを5年間支給する。
- ・全村により幼稚園を準備する。
- ・正規教育水準かつASEAN水準の公立学校を幼稚園から大学に至るまで準備し、クメールの子供たちを指導する教員の能力と質を向上させる。

4 社会事業

- ・妊娠中の女性は、妊娠1回につき政府から50万リエルを受給できる。
- ・65歳以上の老人は政府から月額15万リエルを受給できる。
- ・失業中の労働者は5カ月間給与の50%を受給できる。

5 公共サービスと民主的統治

- ・よい議員、よい公務員、活発な市民。
- ・政府組織内の政党構造を廃止する。
- ・市民によく仕えるために、地方への権力、資金、能力を分散させる。

No.10 民主連盟党（LDP）

1 首相在任期間を規定する（2期までとする）

この2期規定は、首相が政府組織のなかで親族や派閥といった縁故主義を生み出す機会や、国家や市民の利益を損なうような縁故主義的独裁体制を生み出すまで権力を拡大する方向に進む機会を作らせないようにするためである。

2 首相は個人的な自衛軍を作ることを禁じる

自衛軍の創設は、権力を維持し、居座り続けるために市民を搾取し脅迫するという首相の野心に仕える可能性を持ちうる武装集団の創設と同じである。

3 首相は政府によって提供された公邸に居住する必要がある

これは首相の家族を心身ともに良好な状態で安全と生活を守るためであり、首相が大きな責務を持って国家の職務を全うすることを簡便にするための政策である。この政策は首相とその家族に仕えるための軍隊の砦を居住地に作ることを抑制するためである。

4 政府法廷の設立

これは、不適切で賛同を得られない行為や職務をないがしろにする公務員の職権乱用行為に対して市民が訴訟を起こしやすくするためのものである。市民はこの制度に沿って訴訟を起こし、不正常な書類や政府主体で出されるさまざまな決定をその都度検証させることができる。

5 警察と軍の将官以上の称号は国民議会からの信任で得られるものとする

これは、市民の代表である国民議会が、領土の完全性、治安、社会の安定を守る任務を持つ武装軍の指揮官である軍高官や警察高官に対する影響力を持つことを可能にし、与党党首の独裁の道具として武装軍が利用されることを抑制しうる政策である。

6 公務員の中立性

これは、公務員の任命と仕事の分担を能力に沿って保障し、政府職員である公務員に価値を与え、あらゆる機会に宣伝の道具として公務員を利用したり、与党の利益に仕えることを回避するための政策である。

7 市民の直接投票によって首都、州、クロン、スロック、カン、クム、ソンカットの議員選出・解任を行う

これは、すべての市民の代表が権力の主人である市民に対して直接責任を負うという政策であり、国家レベルから独裁的権力の発生の開始点としての草の根に至るまで、党派の繋がりを断ち切ることを促すものである。

8 国民議員選出に際して直接選挙制を採用する

直接選挙制は、議員に対する党首の影響力を減退させるものである。なぜなら、この制度は市民に市民議員を選ぶ権利を与えるもので、党首が選ぶわけではない。この制度は、市民議員が、影響力を持つ特定の人物からの干渉を受けることなく、独立性と自由を享受することを助けるものであり、政府の改革を支える仕事を効果的に果たし、国家と市民の真の利益になる法律の策定準備を可能にする。

No.13 フンシンベック党

1 立憲君主制、民主制、複数政党制を守り、後押しする。

2 王に捧げる国家委員会を創設し、崇高なる王制を不変のものとし、恩赦を与えるという国王の特権を尊重する。

3 正義、公正、公平に臣民の問題を解決するための独立し中立的な裁判システムを準備する。

4 カンボジア開発評議会の窓口を一元化し、地方での投資を簡易化、迅速化、期限内に間に合うようにして投資家を鼓舞するためにより効果的にする。

5 地方や国境地域に工場を建設する。これは臣民に仕事を与えるためであり、若者が地方で就業できるようにするためである。

6 教育貸付を立ち上げる。これは十分な資金を持たない学生が外国での高等教育を継続できるようにするためである。貧困学生、特に地方の女子学生が適切に生活していくためにインターンできる場所を立ち上げる。

7 保健分野における高度な専門性を持つ道徳的職業集団を立ち上げる。特に学生は無償で貧困者の治療を行う。草の根に至るまで迅速に臣民を無料で救済するサービスを導入する。妊婦は誰であれ経済的理由によって死亡することがないようにする。

8 商品とあらゆる燃料の値段を引き下げるとともに電気料金価格を引き下げる。労働者・従業員、公務員や軍人の給料を上げて市場状況に沿って適切なものとする。

9 農作物を販売するための市場確保を保証し、自由市場と世界市場の価格に沿って農作物の値段を保証する。

10 国境付近の経済コンセッション用地を外国人に与えることを止め、社会コンセッション用地を拡大し貧困層の臣民へ分け与えるようにする。臣民の土地を強奪することのないようにする。

- 11 自然保護において、森林伐採、違法採掘、違法技術による漁業への従事を規制し、やめさせる。
- 12 発展のパートナーであるさまざまな組織を励まし、市民社会を開放し、さまざまな草案とともに相談して作成する。
- 13 貧困層の臣民の借金を解決する。

No.17 クメール意思党 (KWP)

- 1 よい方向に変えることを決定する：政府関連法、司法制度関連法、単独政党で可決準備できる法律を深刻に改訂する。汚職行為と派閥主義に対抗する。
- 2 経済の加速を促し、市民の生活に仕える。
- 3 譲渡地の利用と自然保護を、皆のための仕事や開発のために正しく行わせる。
- 4 労働者には月給 190 米ドルを与え、公務員の給与も上げる。特に教員と医師は公立と民間で差異をなくす。
- 5 あらゆる仕事と予算をクム・ソンカットに分散させる。それはクム・ソンカットの喜ばしい発展と安全のためである。

No.20 人民党 (CPP)

- 1 全国民の団結を拡大し、憲法を尊重し、王制を維持し、複数政党制自由民主主義を後押しし、人権保護と法律・社会正義の尊重を保障する。
- 2 国家の独立、主権、領土の完全性、平和、安全を永続的に護る。
- 3 末永く年間の経済成長率を 7%とし、経済成長の果実を公平に分配し、年間 1%以上貧困率を削減する。
- 4 家族規模の生産をする農民の農地に課税せず、農民の生産拡大と適正価格で販売する市場探しを支援する。土地を持たない人民は、社会的土地コンセッション事業に沿って居住用の土地を得てそこで生産できるようにする。
- 5 労働者と従業員の月給を引き上げ、諸々の利益を加算し、就労条件を引き上げ、労働者と従業員の就労を守る。
- 6 公務員、軍人・警察の給与を引き上げ、定年退職者と元軍人のための年金を引き上げる。
- 7 政府用地上に位置する市場で商売をする人たちは、管理、利用、子孫やその他の人へ譲渡をする権利を無期限で有する。
- 8 すべての青年は教育を受け、就業し、国家レベル・地方レベルの決定に参加する機会を有する。すべての郡に高校、すべてのクムに中学、すべての村に小学校をおく。一般人民は保健センターや国立病院でよりよい保健サービス享受する。貧困層や障碍者に対する保健センターや国立病院での診察と治療は無料とする。
- 9 効果的で永続的な社会保障制度を発展させ、拡大させる。それは人民をさまざまな危険から守るものであり、人民の誰一人も社会保障制度から外れないようにする。
- 10 2020 年には電気供給を全村へ行き届くよう拡大し、電気料金を引き下げる。都市部から農村部まで交通網を結び、農村部の道を土道からコンクリート道へ改修する。灌漑システムと浄水システムを発展させ、あらゆる地方での水供給能力を向上させる。
- 11 公共サービスの提供は、質が高く、明瞭で効果的かつ簡便にあらゆる段階の人民に行い、クム・ソンカットの治安維持を良好かつ強固にする。

(参考)

《2018-2023 年の祖国建設と防衛のための政治綱領》(p.7) にともなう具体的な公約 (p.8-11)

- 1 祖国を防衛し、民族の功績を守り、経済・社会発展を継続するために、カンボジア王

- 国憲法のもと、全民族の団結を強化する。
- 2 民主化・自由・複数政党制を引き続き強化、拡大することで、草の根まで基礎を築き、人民のあらゆる自由な権利を守り、磨き上げ、法律と社会正義の尊重を強化する。
 - 3 年間の経済成長率 7%を確保し、貧困率を年間 1%ずつ減少させる。
 - 4 家族規模の生産をする農民の農地に課税せず、農民の生産拡大と適正価格で販売する市場探しを支援する。土地を持たない人民は、社会的土地コンセッション事業に沿って居住用の土地を得てそこで生産できるようにする。
 - 5 労働者と従業員の給与を毎年上げ、諸々の利益を加算し、生活水準と就業条件を上げ、労働者と従業員の就労を守る。さらに、周辺地域の一部の先進国のように、2019 年より 2 週間ごとに労働者と従業員に毎月の給与を分割支給できるようにする。
 - 6 公務員と軍人の給与を毎年上げ、退職者と元軍人の年金を上げて生活水準を向上させる。民間部門の労働者と従業員と同様に、公務員と軍人の給与を 2 週間ごとに銀行で受け取ることができるように準備する。その後、元軍人と退職者を含むすべての公務員の給与と年金を順次上げていく。2 週間ごとに銀行で受け取れるようにする仕組みは 2019 年より実施する。さらに、まだ銀行口座を開設していない特別地勤務の軍人に対しては、開設にともなう教育も行う。
 - 7 政府用地上に位置する市場で商売をする人たちは、管理、利用、居住、子孫への譲渡をする権利を無期限で有する。
 - 8 すべての青年は教育を受ける十分な機会を有し、仕事を持ち、自分の意に沿った決定を行う。すべての郡に高校、すべてのクムに中学、すべての村に小学校をおく。一般人民は保健センターや国立病院でよりよい保健サービス享受する。貧困層や障害者に対する保健センターや国立病院での治療は無料とする。
 - 9 灌漑システムと上水道システムの発展を後押しし、あらゆる地域での水供給水準を上げる。2020 年までにすべての村での電気供給を達成し、電気料金の引き下げを継続する。交通インフラ開発と質の高い運輸を後押しし、すべての村の中心地とを結ぶ道路を永続的に拡大し、コンクリート道路として整備する。貧困層市民や小規模企業のための小規模財務サービス、とくに農村部での債務サービスの提供を拡大する。2019 年と 2020 年のあらゆる利用者に対する電気料金の引き下げは以下のとおりである（原文では具体的な引き下げ案を提示しているが、ここでは中略する。プノンペンでの電気料金引き下げ率は農村部よりも高い）。電気料金引き下げに際して、政府が年間 4000 万リエル負担する。この電気料金引き下げは人民の日々の暮らしに貢献するだけでなく、投資の呼び込みや経済活動に貢献し、さらに仕事を生み出し、市民の給与増加につながる。
 - 10 幸せにあふれ、永続的な社会を支えるシステムを発展させ、拡大する。それは人民を危険から遠ざけ、社会を支えるシステムから誰ひとり外れることのないようにする。もし人民党がこの選挙で勝利した場合、『2016–2025 年の社会を支える国家政治綱領』の実施を継続する。優先事項は以下のとおりである。①2019 年半ばから妊婦と 2 歳以下の子供を持つ女性への支援プログラム、②2019 年内に公務員の危険業務体制実施準備、③2019 年内に労働者と従業員への年金体制準備。
 - 11 質が高く簡便にアクセスできる公共サービスを充実させる。

（出所）各党の公約については、NEC（2018b）。人民党公約の末尾の参考資料については、フン・セン首相演説（2018 年 7 月 7 日付、<https://www.cpp.org.kh/details/79843>）と選挙管理委員会キャンペーン映像（<https://www.youtube.com/watch?v=BNLGnzunnNs>）より作成。

（注）政党名の前に付した番号は、2018 年総選挙時に各党に抽選で割り当てられた数字である。

補足資料2：第6期国民議会議員選挙における各党の選挙区別得票数

	1. Khmer National United Party	2. Our Motherland Party	3. New Light Party	4. Cambodian Nationality's Party	5. Khmer Rise Party	6. Beehive Social Democratic party	7. Grassroots Democratic Party	8. Republican Democracy Party	9. Resakency Khemara Party	10. League for Democracy Party	11. Khmer Republican Party	12. Khmer Anti-Poverty Party	13. FUNCINPEC
ボンテンアミアンチエイ	14,609	-	-	1,172	-	554	1,773	436	-	10,805	5,180	2,131	17,567
バッドンボン	6,421	-	1,257	1,643	-	1,305	4,326	770	-	28,279	4,761	2,920	29,218
コンボンチャーム	4,671	-	1,401	7,044	3,012	5,283	4,970	650	574	20,266	4,784	2,688	27,418
コンボンチナン	3,317	-	931	1,946	-	3,700	1,985	615	-	10,289	-	2,755	20,789
コンボンズブー	5,480	1,665	810	1,945	2,301	5,524	4,203	606	613	19,542	-	3,784	16,355
コンボントム	6,594	-	1,276	2,576	-	1,627	3,958	548	612	10,490	5,475	2,554	32,188
コンボート	4,428	-	1,327	1,754	-	2,234	3,536	741	676	14,480	-	3,951	19,385
カンダー	4,609	1,689	819	4,546	3,724	8,462	4,264	-	751	27,495	-	4,265	23,226
コッコ	1,237	-	-	322	-	233	378	-	-	1,773	-	785	2,792
クロサエ	2,446	-	-	1,391	-	1,126	1,217	400	-	4,201	2,532	1,363	11,155
モンドルキリー	554	-	-	287	-	142	243	-	-	1,074	-	477	1,097
ノンベン	5,844	1,265	896	2,466	8,540	5,647	13,463	-	519	30,025	3,689	3,350	30,740
ブレアヴィヒア	3,152	-	-	1,160	-	445	672	385	-	3,085	2,839	1,465	4,118
ブレイヴェーン	6,387	2,234	1,340	6,357	-	9,275	4,490	1,074	-	31,439	-	4,527	27,028
ボーサット	1,601	-	-	925	-	791	905	277	-	7,137	-	1,581	7,033
ラッタナキリー	1,779	-	-	434	-	406	1,167	273	-	2,828	-	1,063	2,439
シアムリア	9,605	-	1,470	1,520	2,756	1,043	5,278	954	-	29,234	6,634	2,914	29,728
ブレアンハヌーク	1,252	-	359	404	1,669	299	739	204	-	3,464	-	792	9,129
ストウントラエン	1,376	-	-	380	-	333	364	-	-	1,551	-	1,142	4,632
スヴァーイーリアン	2,937	1,153	-	2,006	-	1,539	2,585	-	-	10,903	-	3,280	15,133
ターカエウ	4,880	1,168	641	1,901	-	3,889	6,685	558	467	21,649	3,999	2,403	17,170
カエツ	343	-	-	120	-	89	155	-	-	820	-	268	1,124
バィリン	443	-	-	199	-	120	272	100	-	1,472	-	269	1,300
ウッドーミアンチエイ	2,123	-	-	503	-	259	468	-	-	5,989	1,738	1,034	3,854
トゥボーンクモム	3,289	-	982	2,369	-	1,699	2,471	-	-	11,074	-	3,337	19,912
	99,377	9,174	13,509	45,370	22,002	56,024	70,567	8,591	4,212	309,364	41,631	55,298	374,510

	14. Klnmer Economic Development	15. Cambodian Youth Party	16. Dhammasevay Party	17. Klnmer Will Party	18. Cambodia Indigenous People Democracy Party	19. Klnmer United Party	20. CFP	有効投票数	無効票	無効率	総投票数	登録者数	投票率
ボンディアイミアンチエイ	-	2,311	-	7,728	-	2,347	185,242	251,855	15,948	5.96%	267,803	355,612	75.31%
バッドンボーン	-	3,114	2,711	16,327	-	3,793	299,474	406,319	32,484	7.40%	438,803	565,044	77.66%
コンボンチャーム	3,358	2,913	3,275	16,009	1,388	3,763	305,557	419,024	51,483	10.94%	470,507	576,550	81.61%
コンボンチン	1,435	1,898	-	9,954	-	2,138	193,474	255,226	16,419	6.04%	271,645	310,954	87.36%
コンボンズブー	1,647	2,335	2,803	13,913	-	2,934	338,102	424,542	26,011	5.77%	450,553	503,483	89.49%
コンボンストム	2,464	2,333	2,529	12,911	-	3,158	199,148	290,441	21,193	6.80%	311,634	384,759	80.99%
コンボート	2,296	2,561	3,107	12,706	-	3,852	207,675	284,709	26,738	8.59%	311,447	365,458	85.22%
カンダール	2,171	2,467	3,136	15,474	-	3,662	449,748	560,508	71,743	11.35%	632,251	732,572	86.31%
コッコン	-	-	-	2,516	-	-	39,686	49,722	3,005	5.70%	52,727	64,647	81.56%
クロチエ	-	1,760	-	5,789	1,374	-	109,778	144,532	10,535	6.79%	155,067	189,803	81.70%
モンドルキリー	-	-	-	968	1,389	-	25,577	31,808	1,768	5.27%	33,576	40,604	82.69%
ブノンベン	1,812	2,281	2,382	14,772	1,099	2,994	461,309	593,093	100,297	14.46%	693,390	866,347	80.04%
ブレアヴィヒア	-	-	-	4,615	871	-	76,588	99,395	5,552	5.29%	104,947	123,638	84.88%
ブレイヴェーン	-	3,066	3,946	15,199	-	4,599	368,729	489,690	52,795	9.73%	542,485	661,042	82.07%
ボークサット	717	952	-	4,585	-	1,562	185,111	213,177	9,407	4.23%	222,584	256,145	86.90%
ラッタナキリー	-	-	-	2,673	660	-	60,760	74,482	4,142	5.27%	78,624	95,381	82.43%
シアムリアブ	2,209	3,022	2,776	12,991	1,248	3,612	275,270	392,264	30,360	7.18%	422,624	535,521	78.92%
ブレアシアヌーク	-	1,059	-	3,373	-	732	72,232	95,707	7,286	7.07%	102,993	124,072	83.01%
スラントラエン	-	-	-	2,310	527	-	48,650	61,265	2,910	4.53%	64,175	77,987	82.29%
スヴァーイリアン	1,533	1,976	-	9,367	919	2,188	229,209	284,728	21,719	7.09%	306,447	352,061	87.04%
ターカエウ	1,676	1,994	2,395	12,866	-	4,169	376,579	465,089	46,100	9.02%	511,189	585,564	87.30%
カエツブ	-	-	-	875	-	-	17,472	21,266	924	4.16%	22,190	24,377	91.03%
バベリソ	-	-	-	1,142	136	-	22,789	28,242	1,980	6.55%	30,222	38,151	79.22%
ウットーミアンチエイ	-	-	-	3,541	586	-	74,009	94,104	4,997	5.04%	99,101	123,037	80.55%
トゥボーンクモム	1,937	3,291	-	10,265	-	3,282	266,945	331,053	28,863	8.02%	359,916	427,408	84.21%
	23,255	39,333	29,060	212,869	10,197	48,785	4,889,113	6,362,241	594,659	8.55%	6,956,900	8,380,217	83.02%

(出所) NEC (2018c) より筆者作成。